

第4回「住宅部品点検の日」シンポジウム・平成27年10月1日 来場者アンケート結果

当協会では、第1回シンポジウム以来、出席者への配布資料にアンケート用紙を同封し、会場内での記入をお願いして、閉会時に受付にて回収しています。

第4回のシンポジウムのアンケートの有効回収数は、111でした。

※ 出席者193人（来賓、報道、事務局関係者除く）に対し約58%

1. 回答者の属性

アンケートの回答者の立場・職業は、「住宅部品メーカー」が68%と約7割を占めており、これに「団体職員」が17%と続いている（図1-1-1）。参加者はほとんどが男性で（図1-2-1）、年代は50代が過半数となっており40代以下の参加者は22%と少ない（図1-3-1）。

第1回から第3回までの結果と比較すると、立場・職業、性別は比較的似た結果であるが（図1-1-2、図1-2-2）、年代別でみると第1回では40代以下が約半数を占めていたのに対して、第4回（今回）は50代以上が78%となるなど、若い年代の参加者の比率が低下している（図1-3-2）。

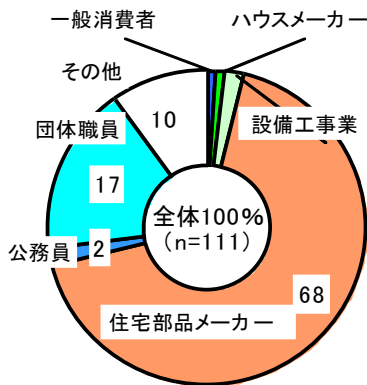


図1-1-1 回答者の立場・職業【第4回】

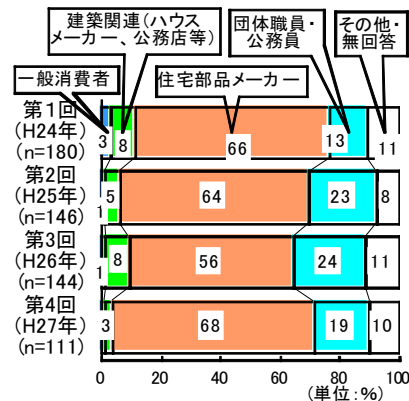


図1-1-2 回答者の立場・職業【経年比較】

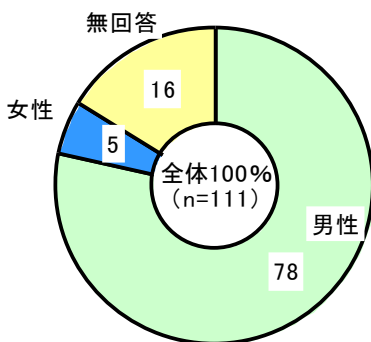


図1-2-1 回答者の性別【第4回】

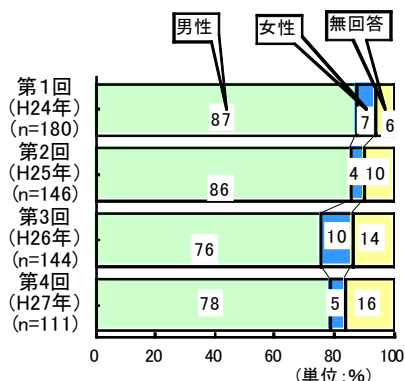


図1-2-2 回答者の性別【経年比較】

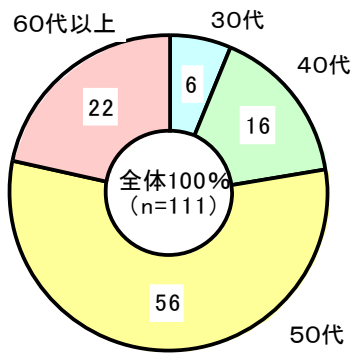


図 1-3-1 回答者の年代【第4回】

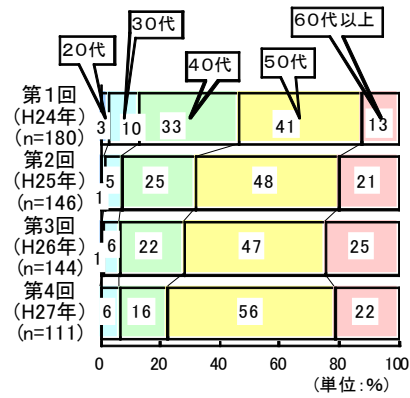


図 1-3-2 回答者の年代【経年比較】

2. シンポジウム全体の印象

今回のシンポジウムの印象を、項目ごとに3段階でたずねた。「良かった」という回答比率は『シンポジウムの全体の構成』で64%、『発表の時間配分』で53%、『発表全体内容の印象』で60%と、いずれも「良かった」が半数以上となっており、「良くなかった」と回答した人はわずかであった(図2-1)。

その他の内容としては、“面白かった”、“参考になった”といった肯定的な意見が多かったが、“全体的に時間が短かった”、“パネルディスカッションでは、建築事業者代表の声も聞きたい”といった意見もみられた。

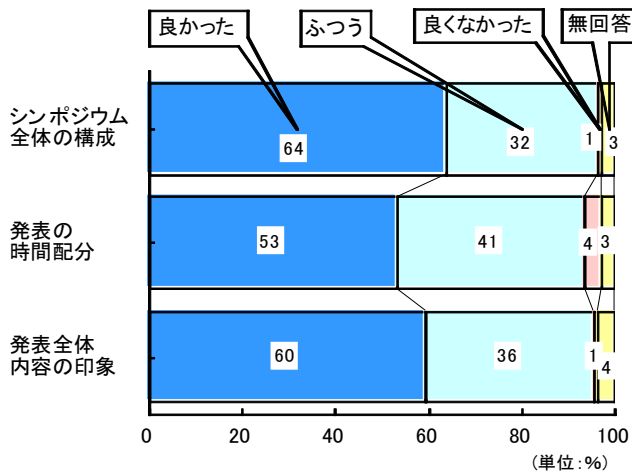
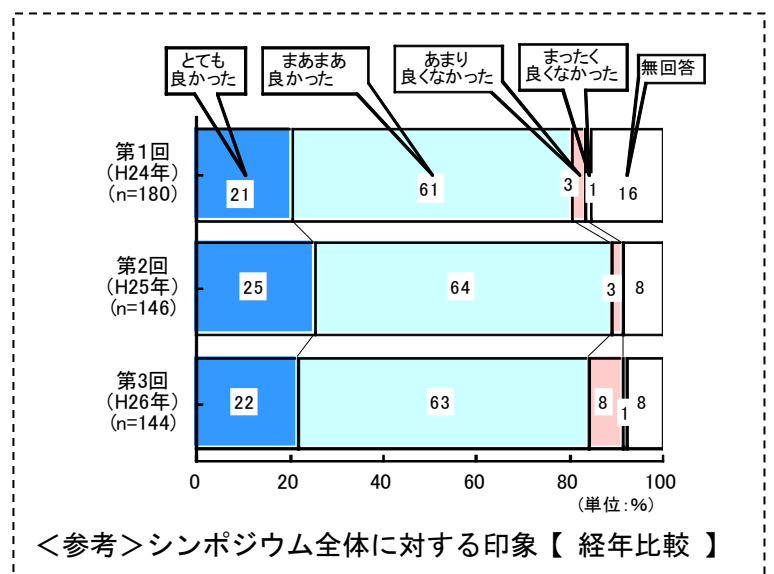


図 2-1 シンポジウムに対する印象【第4回】
(n=111)



<参考>シンポジウム全体に対する印象【経年比較】

※ 第1回～第3回と第4回では質問の形式が異なっているため経年比較は行っていない

3. 参考になったプログラム

各プログラムで「参考になった」という比率は、“研究報告1：「住宅部品を長く使っていたかくために」”が87%、“パネルディスカッション：「住まい手に点検をどう伝えるか」”が85%、“研究報告2：「住宅部品の点検に関する動向について」”が78%、“基調講演：「住宅の長寿化から居住力を考察する」”が73%、“住宅部品点検推進活動について”が56%と、全体的に高い評価が得られた（図3-1）。

シンポジウムの内容についての具体的な意見（参考になった理由・ならなかった理由）としては、“掃除の考え方がかわった”、“ファクターメソッドの考え方が参考になった”、“消費者の立場からの意見交換もあって、非常によかった”といった好意的な意見とともに“基調講演は、客観的根拠の内容が少しわかりづらかった”、“居住者のスタイルが多様化していることを考えると、各年齢層別の意見が出されてくるともう少し深みと広がりができるように感じた”といった意見もみられた（次頁）。

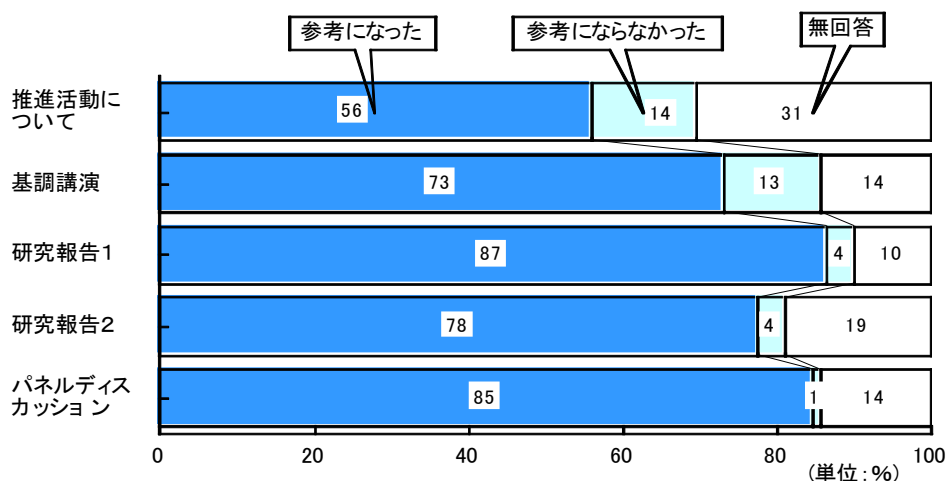
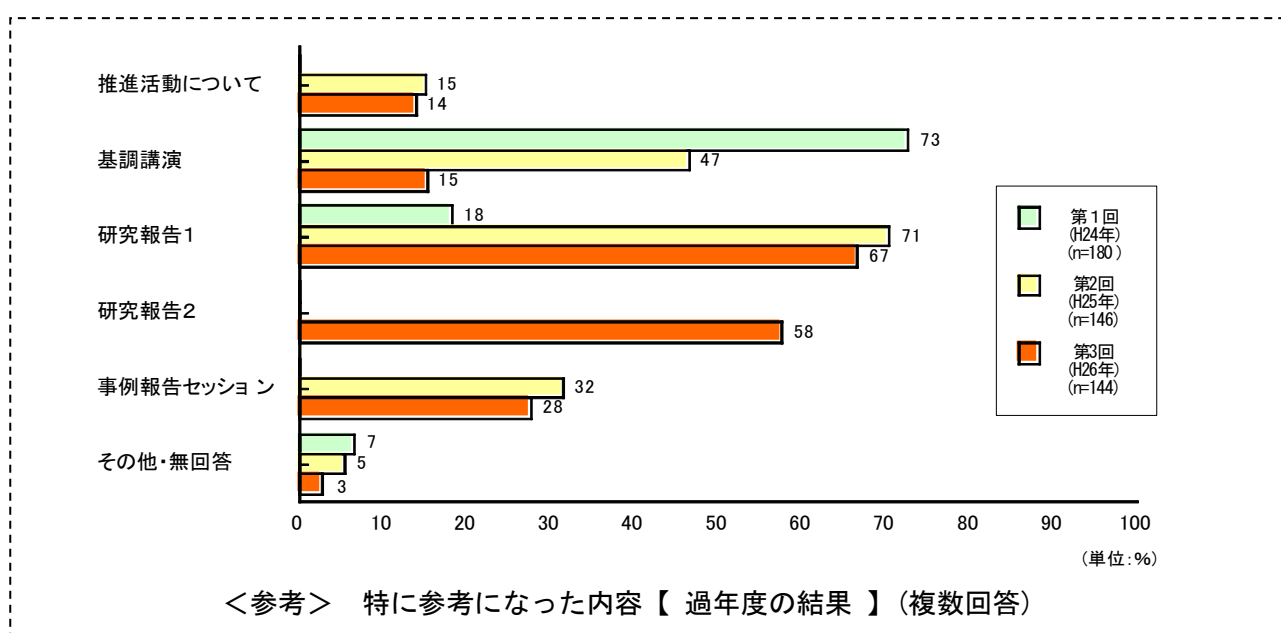


図3-1 特に参考になった内容【第4回】(n=111)



<参考> 特に参考になった内容【過年度の結果】(複数回答)

※ 第1回～第3回と第4回では質問の形式が異なっているため経年比較は行っていない

4. “点検の必要性を伝える” ことについて

今回のシンポジウム全体を通して“住まい手に点検の必要性を伝えること”について、全体の85%から「非常に必要だと感じた」との回答が得られた（図 4-1-1）。

第1回から第3回までの結果と比較すると「非常に必要だと感じた」比率は、第1回では71%であったが、第4回ではこれが85%となるなど、点検の必要性に対する認識が徐々に高まってきていることがうかがえた（図 4-1-2）。

必要性を感じた理由としては、回答者の72%が「安全・安心に使うことができるから」、51%が「正しい使い方やメンテナンスについても関心や意識を高めることができるから」をあげている（図 4-2-1）。

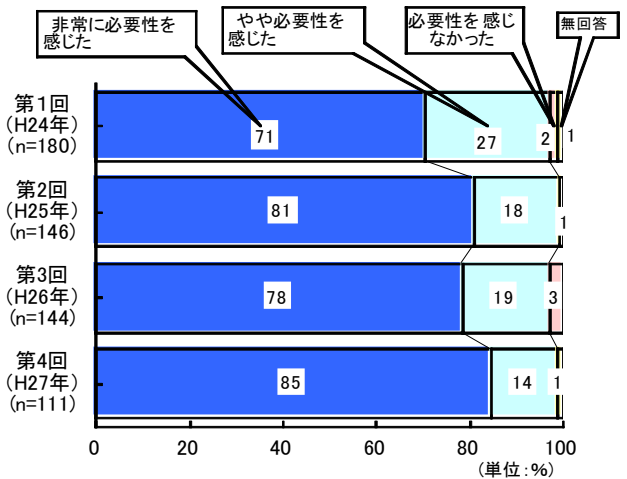
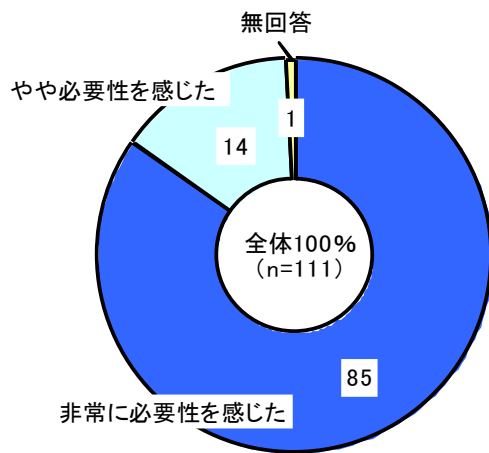


図 4-1-1 必要性を伝えることについて【第4回】

図 4-1-2 必要性を伝えることについて【経年比較】

安全・安心に使うことができるから
 正しい使い方やメンテナンスについても
 関心や意識を高めることができるから
 住宅の資産価値の維持・向上につながるから
 買い替え時期を明確にすることができるから
 住宅のリフォームを考える契機となるから
 その他
 無回答

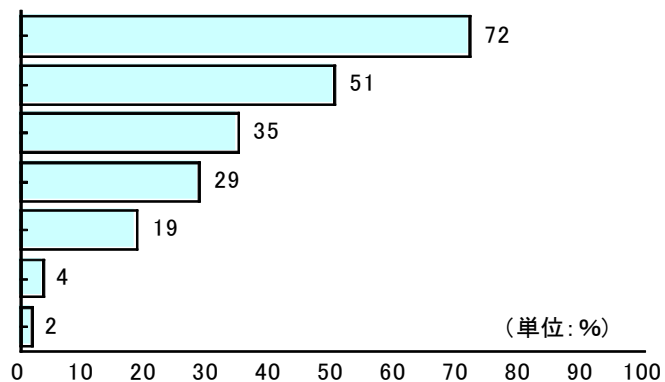


図 4-2-1 必要だと感じた理由【第4回】(n=111)

第1回～第3回の結果に比べ、選択肢の順位には大きな変化はないが、第4回は“安全・安心に使うことができるから”の比率が高く、安全・安心への期待が高まっている（図4-2-2）。

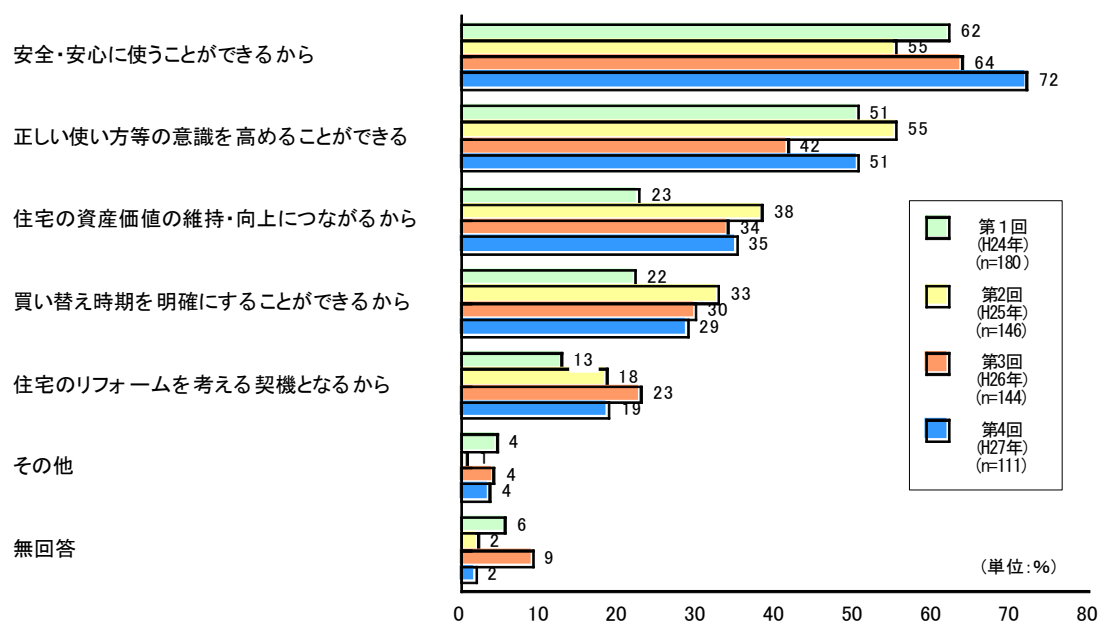


図4-2-2 必要だと感じた理由【第4回】

(注) 第1回調査では、“住宅部品を点検する必要性”、第2回調査では、“保守点検の重要性”、第3回は“点検の重要性”について聞いた内容となっている。

■ 必要だと感じた理由・その他の具体的な内容（自由記述）

- ・ 安心・安全が第一。住居力&ものを大切に使う意識
- ・ 事故防止のため
- ・ 消費者にいかん点検を知らせるか。事業者と消費者のコミュニケーションの強化
- ・ 何ら消費者、製造者双方からの告知無しでも、通常認知される状況になってほしい
- ・ 「家カルテ」のような情報共有制度は更に進めてほしい

■ 必要性を感じなかった理由（自由記述）

- ・ 施主への情報提供、知識レベルの向上は重要だと思うが施主のレベル向上には限界があると思う。
- ・ 施主の知識が少なくても安全性が保たれる点検などの制度の充実がないと高齢者等の弱者は救えないと思う。
- ・ 覚えきれないストック社会における住宅部品のあり方についても、もっと議論が必要だと感じた
- ・ 快適性の裏に危険性が伴っている実績が認知されていない為

5. “製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望事項

“製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望としては、全体の 72%が「一般消費者に対する広報、周知を図ってほしい」をあげており、一般消費者への周知が最も重視されている。次いで「点検の必要性の広報や法制化など、行政からの支援がほしい」(46%)、「点検の標準化や連絡窓口の明示など、点検を実施または依頼しやすくしてほしい」(29%)、「今回のシンポジウムのようなイベントで取り上げてほしい」(29%) どの要望が続いている(図 5-1)。

“製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望としては、過年度から引き続き、一般消費者への周知が最も重視されているが、“点検の必要性の広報や法制化など、行政からの支援がほしい” の比率が前回に比べややアップしている(図 5-2)。

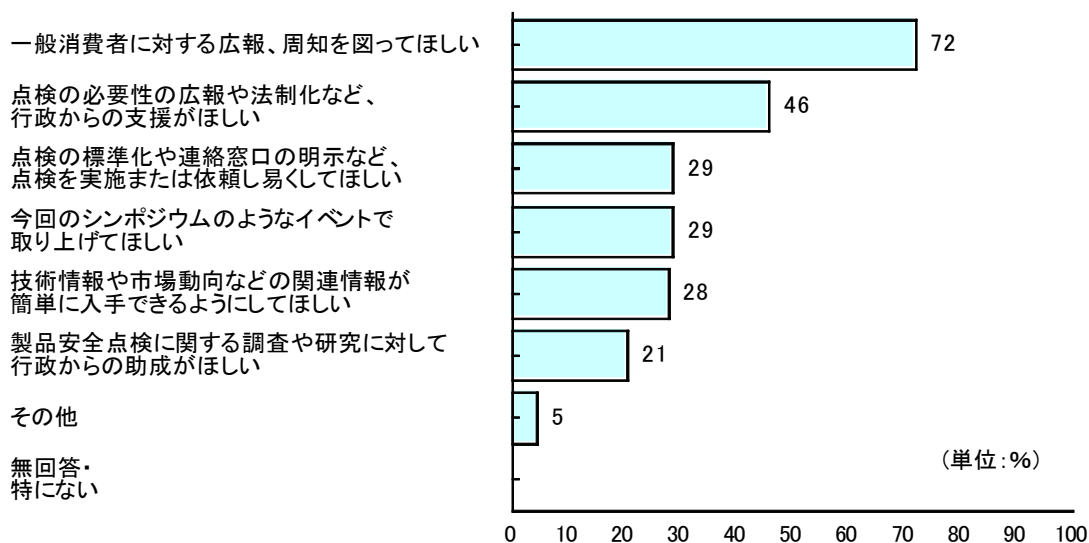


図 5-1 “製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望事項【第 4 回】(n=111) (複数回答)

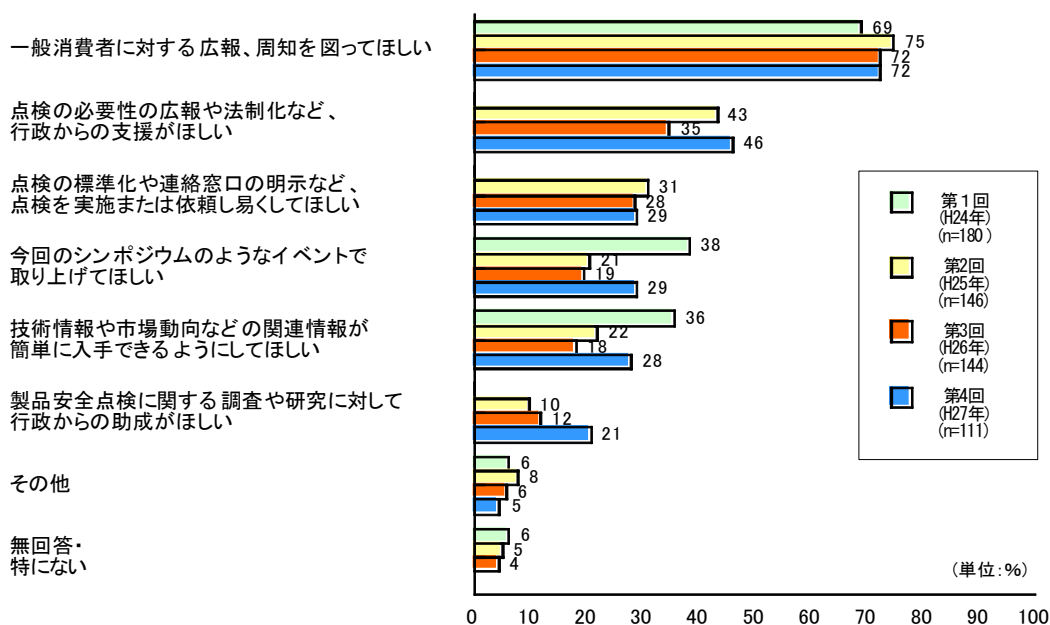


図 5-2 “製品の情報や修理・交換に関する情報” についての要望事項【経年比較】(複数回答)

(注) 第 1 回及び第 2 回、第 3 回調査の回答選択肢は、同一ではない。該当する箇所が空白となっているものは、同様の質問が行われなかったものである。

■ 基調講演、研究報告、パネルディスカッションの内容に関する質問

Q1 基調講演で、アメリカでは買い手側にインスペクションする権利があるという話があったが、その費用は買い手側が負担するのか。負担することへの抵抗感はないのか。

Q2 有料点検が73%という話には驚いた。費用がかかる点検の周知方法を教えていただきたい。

Q3 消費者とメーカーとの役割は理解できるが、建築事業者はどのように対応するのがよいのか。

■ 質問に対する回答

A1 費用は買い手が負担します。

(抵抗感の有無はアメリカ人の慣習に依存する部分があるかと思います)

A2 73%はタイムスタンプの問い合わせのお電話をいただいた方の有料点検受診率です。

周知に関しましては、カタログ、取説、商品への直接ラベルの貼り付け、消費者教育、修理で訪問させていただいたサービスマンからのお知らせなどを行っています。もちろんタイムスタンプの問い合わせの電話をいただいたタイミングでも行っています。

A3 建築事業者におかれましても、お施主様に新築引渡し時に各住宅設備機器の点検の必要性を(参照：自分で点検ハンドブック【リビングアメニティ協会発行】)お伝えていただきたい。
